



しょくいくだより

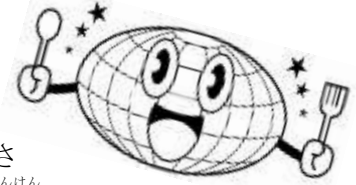
平成30年10月号
さいたま市立宮前小学校
校長 松下 穰
栄養教諭

10月は「世界食料デー」月間です！

10月16日は「世界の食料問題について考える日」として国連が制定した「世界食料デー」です。1981年から世界共通の日として制定されました。これは、世界の一人ひとりが協力し合い、最も重要な基本的人権である

「すべての人に食料を」を現実のものとし、世界に広がる栄養不足、飢餓、極度の貧困を解決することを目的としています。

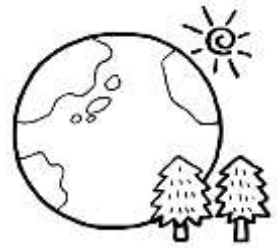
日本では、「世界食料デー」のある10月を「世界食料デー」月間としてさまざまなイベントが開催されています。「世界食料デー」月間をきっかけに自分自身の生活を見つめ直し、世界中のみんなが食べられるようにするにはどうしたらよいか、考えてみませんか。



私たちの生活とのつながりは？

現在、世界では、すべての人が十分に食べられるだけの食料が生産されています。それにもかかわらず、約8億1500万人（9人に1人）が毎日空腹を空かせながら生活しています。一方で、私たちは、たくさんの食料を輸入しながら、たくさん捨てています。世界では毎年、食用に生産された食料の約3分の1（約13億トン）が食べる前に無駄になったり、まだ食べられるのに捨てられたりしています。

日本では、まだ食べられるのに捨てられている食べ物を年間646万トン、1日に大型トラック1、770台分廃棄しています。そのうちの約半分は、家庭から出されたものです。まだ食べられるはずのものを捨てることは、生産するために必要な水や土地、運ぶための燃料なども無駄にしていることとなります。



（資料：農林水産省・環境省「平成27年度推計」より）

もう一口食べる努力をしてみましょう

～今すぐ出来ること～



本校では毎日、給食の残食を計量しています。（牛乳含む）8月29日～9月28日までの合計残食量は約341kgで、1日平均約17.9kg、毎日1人約22g（ご飯一口半くらい）残していることとなります。

給食で苦手な食べ物が出た時や、はじめて食べる料理が出た時、「食べたくないな」「残しちゃおうかな」と思っ残してしまった人はいませんか。体調や、食物アレルギーなど体質で食べられない

い、やむを得ない事情で食べる時間がなかったなどの場合もありますが、そうでないならば、もう少しだけ頑張ってみませんか。一人ひとりでは「ほんの少し」と残した給食が、全校分集まるとたくさんの量になってしまいます。栄養バランスの面はもちろんですが、目の前の食事が世界につながっていることを思い、もう一口食べられないか努力をしてみましょう。